

IGS理事会報告

2022 第 3 回理事会報告

防衛大学校システム工学群 宮田 喜壽
エターナルプレザーブ 久保 幹男

1. はじめに

国際ジオシンセティック学会（IGS）における 2022 年理事会が令和 4 年 12 月 8 日オンラインで開催された。以下、その概要を報告する。

2. 2023 年の計画

各委員会より以下の予定が報告され、予算案が認められた。

- ・ 遮水技術委員会 : オンライン講習会（ウェビナー）の開催を継続する。技術紹介ビデオの作成、アフリカ会議 2023（GeoAfrica）と国際ジオシンセティックス 2023 会議（ICG）での特別セッションの運営、遮水技術の基準類に関する世界ベースでのデータベースの公開を行う。2024 年に水理技術委員会と合同でワークショップを開催する件を検討中。
- ・ 教育委員会 : ジオシンセティックス・ハンドブックの出版と資格認定プログラムの整備を予定している。前者については、IGS が著作権を保持し販売する形式で行いたい。
- ・ 水理技術委員会 : 姉妹団体でのイベントや IGS 主催の国際会議で特別セッションを開催する。海洋環境におけるマイクロプラスチックとジオシンセティックスとの関係に関するワークショップの開催を検討中。オープンアクセスジャーナルに 2 編の出版物を掲載し、教育ビデオ 1 本を製作する。四半期ごとにウェビナーを開催し、支部の EtE（ジオシンセティックスの教育者育成プログラム）への貢献も行う。
- ・ 補強技術委員会（宮田が副委員長） : GeoAfrica と ICG での特別セッション、4 本の教育ビデオの製作、オープンアクセス誌への 2 編の出版物掲載を行う。地盤補強技術に関する大学の講義の実施にも参画する。
- ・ 安定化技術委員会 : GeoAfrica と ICG で特別セッションと全体委員会を開催する。Geosynthetics 2023（カンザス）でのワークショップ、EtE への貢献と技術紹介リーフレットの作成、インドと中国でのアンバサダープログラム（クチコミや評判が広まる仕組みを構築するプログラム）を検討中。
- ・ 各地域委員会 : アフリカ、アジア、欧州、パンアメリカ地域委員会より、地域委員会、ウェビナーなどの開催を予定していることや、他学協会との協同的な活動計画が示された。
- ・ 若手会員委員会 : ジョブシャドウイング（社会人に半日か 1 日“シャドウ：影”のように同行し、彼らがどのような仕事をしているかを観察して学ぶ取り組み）の推進、関連国際会議での若手会員の表彰、地域・支部での若手会員の支援強化を予定している。ISSMGE の Bright Spark Lecture Award のような若手会員招待講演の創設を検討中。
- ・ 持続可能性委員会 : 持続可能性計算プログラムの開発と作成、Did you know シリーズとケーススタディ制作を継続する。関連国際会議での特別セッションおよび論文発表、マイクロプラスチック対策の実行、IGS サステナビリティ方針の見直しなどを行う。

- ・コーポレート委員会 :関連国際会議での企業レセプションおよび地域ケーススタディコンテストを開催する。会員増強を進め、SNS などで若手エンジニアを支援する。環境問題への対応、IGS 持続可能性計算プログラム、資格認定プログラムへの貢献、業界団体との協力を促進する。

3. その他の情報

- ・ EuroGeo7 (ワルシャワ) : パンデミック後初の対面式会議で、800 人以上の参加者があり、非常に盛況だった。学生賞および欧州企業ケーススタディコンペティション (ナウエ社 : 独、フスカー社 : 独) の表彰を行った。臨時総会を開催し、IGS 執行部の正式な引継ぎを行った。
- ・ GeoAsia7 (台北) : 参加者は 270 人 (バーチャル参加者 100 人) 以上だった。第 1 回ヤングエンジニア会議が開催され大盛況だった。アジア企業ケーススタディコンペティション (エース社 : 台湾、天津科学技術 : 中国) の表彰も行った。
- ・ GeoAfrica4 (カイロ) : 2023 年 2 月に開催予定。特別セッションは、4 つの技術委員会すべてで計画されている。
- ・ ICG (ローマ) : Moraci (モラッシー) 理事から、会議の準備状況について簡単な説明があった。
- ・ GeoAfrica5 が南アフリカ・ハウテン州ヨハネスブルグ近郊で開催されることが決定。参加者は 200 人程度を想定。開催時期は、当初 2025 年 10 月を予定していたが、同じ年に他の IGS の地域会議が 2 つ開催されるため、現在検討中である。
- ・ 会員特別グループを設けていく。IGS 実行計画に対する理事からのフィードバックを受け取ることを主目的とする。
- ・ コーポレート会員の会費を変更するかについての議論がスタートした。
- ・ IGS 財団の構成が議論され、龍岡元会長等 5 人が委員を継続することが決定した。

4. おわりに

次回の理事会はオンラインで春頃に、その次の理事会は ICG 前日に開催が予定されている。難しい国際状況が続いているが、2023 年は IGS がよりアカデミックに、よりプラクティカルに発展できるように、日本支部としても積極的に活動していく必要がある。